

〇21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、牟田の質問を行います。（発言する者あり）

今年は大変、暑い夏でした。

今年は大変暑い夏で、本当に気温も高く——何て言うんですかね。一番平均気温が高い年だということだったんですけども、武雄市も熱かったですね。6月議会が終わってから、多分ですね、百数十の視察がこの武雄市に見えられたと思います。そういう中で、多分この9月議会はですね、その百数十の都市の議会で、武雄市の名前が出ていると思います。本当に熱かったです。有田工業、有工が甲子園で頑張っていたぐらい、熱かったと思います。では、質問のほうに入りますけども。

これ、書いているようにですね、東京オリンピックが決定しました。本当に良かったと思います。この東京オリンピックでですね、何が一番、決まったポイントだったのかというのが、いろんな報道の中であってるんですけども、やっぱり最終的には、安倍総理のトップ、トップセールスというんですか、トップトーク。そういうふうなものが一番効いたというふうに聞いております。やっぱりですね、トップがきちっと説明して、現地に赴いてやる。いろんなところでやると。それものすごい、なんていうんですか、説得力。そして相手に信用を与える。そういうのが大切だったと思います。この武雄市も多分、同じことだと思います。

これはですね、総理が武雄に見えられました。すみません、画像がですね、スマホで撮ったんですね、なかなか粗いんですけども。総理大臣、現役の総理が見えられたのは、橋本総理。ずっと以前の橋本総理のときに、多分、武雄の物産祭りがあってたときに来られた。もうそれ以来、武雄のほうには、なかなか総理が来ない。来ないというか、来る機会がなかった。ただ、このときは、長崎来られて福岡。その間の佐賀で、佐賀県で1つだけ行きたい場所。これが武雄市ということで、いろんな方々が、こうやって武雄市に来るように御努力なされましたけども、総理御自身も、この武雄市に大変注目を集められて、こうやって来られました。そういう中でですね、総理がおっしゃっていました。

この武雄市の図書館。そういうあり方とかは、アベノミクスに融合すると。そういう中でこの武雄市にも頑張ってもらいたいし、私も頑張るっていうふうなことで言われておりました。これは大変嬉しいことでありますし、そういう評価を受けていることだと思います。ずっと質問のほうに進みますけども。

これはですね、前のオリンピック。夏のオリンピック、普通のオリンピックですね。1964年。1964年に、前回の東京オリンピックが行われました。この1964年というのはですね、ある意味、前ここで1回言ったことがあると思うんですけども、大変なこの日本の変わり目の年ですね、オリンピックがあったということもありますが、私の生まれた年というのは全然関係ないんですけども、木材の輸入が、関税がゼロになった年なんですね。全ての木材

の輸入は、今まで関税をかけてたんですよ。1964年まで。ところが、今度のTPPと一緒に、関税を、木材に限りゼロにした年。で、この1964年から、森林の崩壊は始まったんですね。今や、大根1本より安い角材が入ってくる。森林は荒れ果て、イノシシで大分お困りですけども、そういうふうな形で林業が成り立たない。そういうふうな年が始まったのが、1964年であります。一番目の質問は、農業問題であります。農業問題で、1964年、さっき言った、いろんな政策によって変わっていく。今度はまたTPP、そういうのがあります。

これはですね、若木町の川内地区の田です。水害にもですね、いろんな種類、大きく分ければ2種類ですけども。今、水害、物すごい全国で被害被っています。それは豪雨ですね。雨がぶわあっと、今までにないぐらい降って。そして、もう1つ。もう1つは、武雄市にとって忘れてはならない。これも1つの水害です、渇水。水が足りないのも、1つの大きな水害であります。水害対策において、武雄市は水害か渇水かどっちか、ということでやってたんですけども、渇水のほうは徐々に軽減されてきました。ところが今回、前回もあることはあったんですけども、7月の頭に雨が1回降って、8月の4日までずっと降らなかった。ある地区はもう雨乞いせにやあいかんじゃなかか、というぐらいして、8月4日にやっと雨が降ってくれた。これでなんとか乗り切れるだろうと思ってたら、それからまた8月の二十数日まで、全く降らなかった。本当に、田畑はもうひび割れ寸前。これも川内地区の田なんですけども。これもそうです。これは8月の降った後ですけども、もうあんまり貯まっていないですよ。これはもう本当1週間分とか、そういうぐらいしか残っていません。水瓶です。これ、ジラカンス桜というところがあるところの堤、農業ため池なんですけど、これまだありますけども、もうほとんど下が見えている状態、本当に水が足りない。俗に言う水番さんはですね、とっても大変なんですね。流していいか、ちょっと溜めながらするかと、そういうもので物すごく大変な苦勞をされています。

で、武雄市内のため池。全部でですね、406カ所。ため池は406カ所あります。北方町48カ所。橘町15カ所。朝日町19。武雄25。東が53。西は31。武内多いですね。86。山内町82。若木は47。こういうふうなため池があつてこそ、そういう農業が守られてます。で、そのため池も、だんだん老朽化していく。俗に言う、老ため事業っていうことがあるんですけども、その老ため事業、市内で今406カ所あるっていうんですけども、県単独の、ため池災害防止事業。これはですね、早急に改修、補修の必要のあるカ所。現時点で26カ所。要望があるカ所で19カ所。大体45カ所が来ていると。45カ所。で、年次計画はですね、今年に2から3なんですね。2個から3個。で、45カ所やるには、大体15年から20年かかる。その間にも、どんどんほかの要望が出てくるんで、なかなかこうやって、すぐにはできない。さっき言いました。例えば、例えばじゃないですけども、中山間地。中山間地の水源がないところはもう、これに頼るしかないんですね。例えば矢筈地区もそうでしょう。川内地区もそうでしょう。いろんな、中山間地はため池に頼るしかない。本当に水番っていうのが大変で

す。

ちょっと話、余談になりますけども、雨降り族の話って知ってらっしゃいますかね、アメリカの。雨降り族っていうのがいるらしいんですよ。その人たちが踊ったら、必ず雨が降る。必ず雨が降る、雨降り族っていうのがあるんですよ。そういう人たちがですね、いたらいいいんですけど、その雨降り族が踊ったら何で雨が降るのか。それはですね、雨が降るまで踊るからだそうです。(発言する者あり)

ちょっと今、余談になりましたけども、とにかくですね、私ですね、実際、雨乞いというのをやったことがあります。川内地区もひび割れてだめだったので、神社に水を持って行って、雨乞いの儀式っていうのをやったことがあります。今回もやらなきゃいけない、ぎりぎり寸前のところでした。ぜひですね、そういう老ため事業とか何とか、年に2個しかできない。年に2個しかできないけど、これは何でかっていうと、国の予算、県の予算、市の予算があります。もちろん地元負担もあります。そういう中で、県の予算、市の予算、2個か3個ぐらいしかする余裕がないんですよ。ですからきょうの、まず農業予算の要望は、一番当初言いました。TPPが始まる時が、そういうふうな中山間地を守るために、こういう予算をつけてくれっていう、国、県へのですね、要望をするときじゃないかと。市がしてくれているのは、無理だと思います。国、県のほうが大幅な予算をつけてますので。ぜひそういうので、で、ここに本当は入らなきゃ。TPPの交渉の本格化。ですから、こういう老ため事業、中山間地を守るための老ため事業の要望をやるのはいつかと。今でしょ、と。これ何か流行っているからちょっとやったんですけども。

そういうふうなことで、まず1つ目の質問なんですけども、この老ため事業のために、ぜひですね、順番待ちが20年、30年待っているんで、要望活動を、ぜひやっていただきたい。で、もちろん、執行部だけじゃなくて、武雄市には、水害対策特別委員会、古川議員さんが委員長をされているのがあります。共にですね、一緒になってやっていただけないものか。これを、まず最初の質問としたいと思います。よろしくお願いします。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やりたいと思います。

○議長(杉原豊喜君)

21番牟田議員

○21番(牟田勝浩君)〔登壇〕

ありがとうございます。さっき言ったようにですね、市の単独とか県の単独というのは、やっぱりなかなか予算付けは無理だと思います。お隣の韓国の話は、ちょっとあれかもしれませんが、TPP対策費で9兆円ほど。円で言うと9兆円ほどつけられたと。やっぱり日

本も多分、T P Pに関しては、いろんな予算がつくとは思いますが、ぜひこういうのも、中山間地を守るためですね、本当に渇水で、いつも天候の心配をしなきゃいけないというのがありますんで、ぜひ、そういうふうな要望活動をやっていただきたいと思います。

では、次に進みたいと思います。これみんなのバスですね。みんなのバス、前回は質問させていただきました。市長がですね、このみんなのバスをするときに、ワンマンバスからみんなのバス、みんなのバスからスクールバス、というふうなフレーズで言われたのを覚えております。スクールバスで使ってらっしゃるところは、使ってらっしゃいます。例えば私の地元とかは使っていないんですね。反対に、山間部とか遠距離っていうのが多いんですけども、なかなか使っていない。それは何でかっていうと、例えばこれ8人乗りですかね。そこに例えばお年寄りさんが3人乗った。お年寄りさんと言っちゃいかんですね。一般乗客が3人乗った。子どもたちが乗れないから——子どもたちの乗れない子がいると。そういうことが起きちゃいけないから、ちょっと子どもたちのスクールバスへの対応は遠慮しようということで、育友会——学校で決まったらいい、学校での話し合いで決まったらいいです。逆に子どもたちがいっぱい乗って一般の方が乗れないといけないから、それも考慮して、やっぱり学校のほうで使えないと。例えば川内地区、十何人子どもがいますけども、多くは下のほうまで送っていってもらっちゃってます。菅牟田地区も1人か——2人かな、今。2人、子どもがいますけども、あそこから送り迎え。こういうのがやっぱり使え、こういうせっかく走っているのですよね、使えたらいいと思います。ぜひ、学校の時間帯に合わせて、そういうふうな——何と言うんですか。子どもたちも利用できるような制度、学校側もこれだといよ、というふうな制度ができないものか、これを次の質問にさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

みんなのバスの運行に際しましての制度設計については、基本的にはですね、地元のニーズを調査した上で計画をし、運行してきているところがございます。学校と一言で言いました、小学校、中学校、高校等あるわけですが、小中学校については学校当局、教育委員会等の考え方もあるというふうに思っております。高校生の通学、特に武雄へ出てくるとか、そういう方いらっしゃると思います。そういう方についてはですね、ぜひ御利用いただきたいというふうに思っております。いずれにしましてもですね、そういうニーズがあれば、常に対応していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ちょっと、かみあっていなかったですね。さっき言ったように、乗れない子どもとか乗れ

ない人たちがいた場合の対応はどうなっているんでしょうかって。それで、対応していただけるんでしょうか。それをクリアできれば子どもたちも乗れるんですよ、というふうな質問だったんですけど、武雄うんぬんというのは、まだ、そういう話は言っていないんですよ。まずそのところのスクールバスみたいな形で、遠距離の人。例えば、いつもおじいちゃん、おばあちゃんに送ってもらっている。でもおじいちゃん、おばあちゃんがちょっと具合悪いから、きょうはこっちで行ってみようとか、あと地域の子どもたちで学校へ行けるか、小中学校ですね。そのところを言っているわけですから、再度お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、8人しか乗らないんですよ。ですので、これ2つありましてね。1つは、ただ若木を見ているとね、ほとんど乗っている人いないんですよ。なのでやっぱりですね、1つは計画的にね、この曜日はこの方々、で、入っている、例えば3席だったら子どもたちというふうにあらかじめ計画をしておかないと、やっぱりね、乗ってるところで——何かな、あそこ、やっぱりきょうはこれに乗りたかけんとかって言ってもね、なかなかそれは無理です。20席以上あればそれはできますけど、8席しかないんですよ。で、この制度の趣旨が、もともと買い物難民の方であったりとか、なかなか出てこれない御高齢者のね、あるいは、身体御不自由な方を想定してつくった制度ですので、スクールバスということに関していうと、それは地域の独自性がある、それは地域で、ここはこういうふうにしますということを1回詰めてもらって、その上で私どもと相談をさせていただければというふうに思うんですよ。でない——何て言うんですかね。いっぱい乗ってないときだったらいいですよ。乗っていないときと乗っているときと、子どもたちに不公平感が出るじゃないですか。それこそやっぱり地元のニーズ、先ほど部長が申しあげましたように、地元のニーズですよ。ニーズと、若木町として、こういうふうにしていくんだ、ということがまずあって。その上で、これは、我々の社会政策上ね、これがいいのかどうかっていうのはね、そこはちょっとよく議論をさせていただいて、最終的には若木町のその——皆さんたちがこれはいいよね、ということをしていきたい。これね、100%の解決はもう絶対無理です、そりゃ。8席しかないですから。ですので、それはぜひね、お考えをいただければありがたいなというふうに思っております。ただし、今乗っていないものを乗るようにするのは大賛成です。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

地域で話し合っ、またいろんなニーズを求めて、お願いしていきます。先ほど言いました、乗れない場合の対応っていうのは、部長、特にはなかったんですかね。そのところを

ちょっとお伺いしたかったんで。一番最初の答弁なんか、武雄うんぬんとか高校生とかって
いうのは聞いていなかったんですね、お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

失礼しました。満車で乗れない場合の対応ということでございます。現在みんなのバスに
ついては、事業者、タクシー会社でございますが、ここに運行を委託しております。この委
託する条件としまして、満車の場合については別の車両を手配するというので、準備をす
るようというので運行委託をしておりますので、若干その——満車になったと、即対応
ということで、時間的なタイムラグは発生しますが、そういう準備はいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、対応できるという、やっぱりタイムラグがあるからすぐには無理なんですね。やっぱ
りそういうふうなニーズを見ながら、我々も考えてお願いをしていきたいと思えます。

では続きまして、図書館です。先日ですね、市長がちょうど若木に来られまして、その中
でですね、図書館に、新図書館に行ったことがある人ということで、手を挙げてもらったん
ですけども、ちょっと若木の場合少なかったんですね。で、いろいろ、ちょっと帰られると
きにですね、聞いてみたんですよ。何でこれだけ話題の図書館は行ってなかったの、まだ行
っとらんやっただですか、というようなことを言ったら、やっぱりですね、高齢者の方々結
構多かったんで、なかなか足がない。足がないって言っちゃいかんですね。行く手段のほう
がなかなかないというのと、もう1つは満車でちょっとなかなか入れないと。地元の人でも
すね、物すごく行きたがっているんですね。行った方々も再度リターンで何度も行かれてい
るんですけども、今、周辺部、なかなかそうやって少ない状態。で、例えばですよ、この図
書館のほうで「行きたい」という方が、地域ニーズが結構あると思えます。そういう中で、
図書館にですね「行こうキャンペーン」みたいな形で、それぞれの週、時間——例えば水曜
日とか木曜日とかで、例えば期間限定されてもいいと思うんですね。周辺部のほうが、なか
なか行きたくても行けない。行く——例えば、駐車場満車、例えば、バスとかだったらそれ
関係ないですから。そういうふうな、例えば図書館に行きたい方々はいっぱいいらっしゃる。
いっぱいいらっしゃるけどなかなか行けないんでという、そういう図書館に「行こうキャン
ペーン」みたいな形で、バスとか何とか出せないもんか。これをちょっとお伺いしたいと思
います。

〔樋渡市長「バス出します」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これで思い出しますのはね、例えば、北方町の方が、結構図書館に今、いらっしやっているんですよ。で、聞いてみると、例えば婦人会の皆さんであるとか、あるいは、その——あれはね、——要するに学びのスクールみたいところで、結構、バスで自分たちで仕立ててやって来てくださったりしているんですね。これは山内町もそうなんです。ですので、ディスカバージャパンじゃないんですけど。「ディスカバー図書館」ということで、何らか地元でツアーを造成していただければそれに対して、私どもは例えばバスをお貸しするとかいうことはできますので、ぜひ、そういうツアーを作ってほしいと思います。その際には私が案内したいとこのように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

さっき言ったようにですね、行きたくても、まだ行っていないという方々が、結構いらっしやるんですね。また何千人も来られてて、また増えるかもしれませんけども、ぜひ、そういう人たちのですね、ニーズをかなえていていただきたいと思います。

では、次です。今度は、職員採用についての質問です。これは、武雄市がこう出している、募集の部分ですね。（発言する者あり）これ見てください。やる気のない人は来ないでください。

〔樋渡市長「去年けんね」〕

去年か……

〔樋渡市長「うん、今年人柄ばい」〕

人柄。ああ、これは前回のやつ。で、やっぱ、こうやってですね、武雄市は、例えば普通の一般から、そして民間企業の部、この2つで募集されています。これ、実はこれよくわかんないんで、見落としがちなんですけども、すごいのがあるんですね。たとえば伊万里市とかよその市を見るとですね、この中にですね、昭和55年以降に限るとかですね、年齢が区切っているんですね。よその市はですね、全部、年齢区切っているよ、周辺の市は。今でいうと、昭和54年以降生まれの人とか、なんとかっていう区切りがあるんですよ。武雄市だけはないんですね。ここはもう、私はですね、あんまりこう言われてないけど、これを読んだり、よその募集の文を見てたり違うのはですね、ものすごい、すごいことだと思います。まあ、これは去年のやつでやる気のない人——私はちょっと、こっちの方がインパクトがあるんですね。やる気のある人が来ると。これはですね、もう1つですね、行政視察。行政視察で見えられた方の話の中、これは市長も前おっしやっていたけども、私の知り合いも結構、この武雄市役所とか図書館、病院に関しても行かれるんですけど。何がすごいか、その

事業内容もすごいけど、職員さんの対応が素晴らしいと。事業の内容よりも、どっちかというと職員さんの——まあ、事業内容も褒められますよ。職員さんの対応が素晴らしい、挨拶も素晴らしい、内容も素晴らしいと。そういうふうな形でものすごい言われました。

先日、横浜、300万都市です。来られたんですけども、牟田君で。図書館だったんですね。「図書館すごいね」「いいね」っていいながらも、最後は「武雄市の職員さんも、すごかね」と。やっぱりそっちの方にもなるんですね。両面でこう褒められて、私もこう嬉しかったんですけども。こうやって募集っていうのがあつとります。平成25年。平成25年は採用18名。うち職務経験者が3名です。で、いろんなですね、モチベーションを高める。その企業、市役所も企業と言います。企業でも、そういうふうなモチベーションが、お互いにスキルを高めていくのにどうすればいいのか。

あの、例えば民間企業でもいろんなユニークな政策があるんですね。例えば、頑張った人には金バッジをやると。金バッジ10個集めたら50万、報奨金であります。銀バッジを30個集めたら、同じように50万あげますとか、そういうふうな報奨制度もあるし。例えば提案制度。どんな提案でも、1回500円やりますって。例えば、そうしたら年間1万5,000くらいくるらしい。600万くらいかかるけど。でも、そういうのは、なかなか行政ではできない。どうすれば一番、モチベーション、スキルが高まるか。やっぱりスキルっていうの部分ですね。こうやって職務経験者がですね、今までこう、職員さんの中で入るってことはお互いですね、切磋琢磨、やっぱり切磋琢磨っていうのが大切なんですね。切磋琢磨してスキルが高まっていくと思うんですよ。FB良品しかり、いろんなことでも、そういうふうなスキルが高まって、今の市役所になって、さらに高まっていくと思います。こういう、まずちょっとこの部分で質問なんですけども、こういうふうな、Iターン、Uターン、職務経験者。これ今後、私はさっき言ったようなことを思ってるんですけども、今後もどのように考えていらっしゃるのかお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは平成25年の採用18名のうち、職務経験者3名っていうのは——。去年は職務経験者——この3名はいいんですけど、ほかは、あまりたいしたことなかったんですよ。なので、これはやはり、いい人をやっぱり採りたいって。要するに、なんて言うんですかね、枠とか何とかじゃなくて。例えば、やる気であったりとか、あるいは人柄であったりとか、っていうことであんまりちょっと数にはもうこだわらないようにしようと。っていうのもなぜかという、もうすでに今、19年度から採用からI・Uターンを開始しましてね、25年度の採用実績22名、職員がI・Uターンでいるんですよ。22名いますので、もう一定の人数はいます。私自身は、これね、ここと対立してるんですね、僕。新規採用を例えば、大卒のなりた

ての子は、もう採りたくないですよ。だって、公務員学校行きましたよね。僕ら、人を見る目ないですから。そうするとね、やっぱり試験勉強のあれで、本当にもう——。なんかもうやる気とか、すごいみなぎってるなと思ってた子が、武雄市じゃないですよ、入った瞬間に態度が変わるとか。武雄市じゃないですよ。ですので、それは僕もいろんなところで見てきましたので、それよりもやっぱりですね、例えばうちの恭輔さんっているじゃないですか。あの、議会でもいじめられた。ね、いじめられた。江原さんからいじめられた山田恭輔さんのような、性格的にはそんなたいしたことないんですけど、仕事はね、やっぱやるんですよ。例えば小松さんとか、性格的には大したことないです。だけど、やっぱりこう輪の中に飛び込んで行って、やっぱり頑張ろうと。そうすると、さっき議員がおっしゃったように、プロパーの職員さんと、そういう外来種の職員さんたち、やっぱり切磋琢磨して、あるいは連携して協調して仕事をやっていっていますので、そういう意味でいうと、なんていうんですかね。さっきいったようにもう大学出たての子は、だんだん減らして行って、こういう実績のある人たちを、実績ってなると年齢がかさんでくるじゃないですか。だけど年齢とやる気ってあんまり関係ないんですよ。やっぱりうちの議員さんでも、多くの方々が一定の年齢をいかれていても、すごいやる気のあられる方もいらっしゃいますので、うちの職員もそうです。一番この中で、やる気のあるのは技監です。あんまり年齢って関係ないなって思いましたね。そういう意味でいうと適材適所。やっぱり、人柄だとかやる気だとかというのを中心に主軸において、そうなってくると、この職務経験者の割合が少し増えてくると。やっぱりありがたいのは、議会の皆さんたちのおかげで、やっぱり武雄市で働きたいって、武雄市役所でね、働きたいって人たちが結構いて、今年は20.4倍です。いま約5名かな。おおむね5名か、ちょっと忘れちゃったけど。5名の中に、まあ100人以上の方々がもうすでに応募をされていますので、しかも略歴を見るとすごいです。でも、牟田さんも僕も絶対通りません。通らないですよ、正直いって。あのね、人柄ですから今年は。ですので人柄のいい人を採っていきいたいなと、精進しましょうね。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

スキルを高めるには、やっぱ切磋琢磨なんですね。今、市全体が良い方向に向かっているんで、ぜひそういう形で進めていっていただきたいと思います。

ただ、次の部分。各町の職員さんの数なんですね。各町の市の職員さんの数。武雄町は124名いらっしゃいます。橘町は24名。朝日町は36名。若木は4名、武内町24名、武内町多いですね。東が9名、西が6名、山内町69名、北方町57名、市外が49名。（発言するものあり）はい。こういうふうな形でできてます。ただですね、これを、枠を作ってこの人たちを優先してくださいというのは、これはできないことです。

〔樋渡市長「うん」〕

できないことです。

ただ、この中で1つだけお願いしたいのは、Iターン・Uターン制度というのを、今いわれたんで、Uターン制度でですね、ぜひ、まあIターンもいいと思いますけども、Uターン制度をどんどんPRしてですね、20倍の倍率だけど、もう1回受けて若木——あ、若木といっちゃいかん、こう武雄に戻ってきてくれないかとか。そういうふうなですね。Iターンもいいです。ですから、Uターンでも優秀な方々、いっぱい武雄からこう、行って戻ってきたいと思っている方もいらっしゃると思うんですね、ぜひUターン制度の、Uターンのほうも力を入れていていただきたいと思います。ほとんどですね、Iターンでこられたらですね、今度は武雄町の中に入ってくるんですね。

住まれるのが、22名のうち何割かの方々は市外、県外から来られているんですけど、ほとんど武雄町に住まれているんですよ。ですから、(発言する者あり)——はい。Uターン制度をぜひですね、枠とかなんとか作ってやっていただきたいんですけど、いかがでしょうか。

(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうですね。たしかに、こうちょっと、やっぱり偏在が、これ数字で見ると、やっぱり偏在が目立つなというふうにあります。ただし僕は、そのIターンとUターンというのは同格に扱うべきだと思うんですよ。やっぱり人柄本意だと思いますので。でも結果的にこの数字がね、あと数年たったときに、「若木町増えたよね」とか、あるいは「東川登増えたよね」というふうにね、なるようにしていきたいと思いますし。今回ね、まだこれちょっと、つまびらかには申し上げられませんが、Uターンが多いです、今回。例えば、山内町とかね、あるいは北方というふうに、Uターンがちょっと多くなって、出身だけ見ているとね。ですのでこれはだんだん、恐らくね、IターンからUターンの方になってくると思います。それは、とりもなおさず、武雄市がやっぱり魅力的なんだということになれば、必ずそうやっていくと思いますので、牟田議員さんのおっしゃる方向になるものだと思いますし、例えば山田恭輔秘書課長さんには若木に住んでほしいと。

〔21番「ありがとうございます」〕

私から、直接お伝えしたいというふうに思います。

〔21番「ウェルカムです」〕

○議長(杉原豊喜君)

21番牟田議員

○21番(牟田勝浩君)〔登壇〕

ありがとうございます。まあ、Uターンが必然的になってくる。今度も多いということですね。さっき言ったように、これを枠を作ってやってくださいというのは無理です。これは試験ですからしょうがないです。ぜひそういうふうなものと、やっぱり一番最初にいった、年齢制限が書いてないというのはですね、すごいことだと。あんまりPRされていないと思うんですけども。ほかの自治体の募集とかですね、何とか見てみてください。全部、何歳、何年生まれ以降ってなっていますよ。私が調べた限りですよ。ちょっと、調べきれない部分もあったかもしれないんですけども。武雄だけです。何歳以降って。ですから例えば、今年、武雄20何倍で落ちた、ばってんがもう1回受けてみようとかですね、そういうチャンスがこの武雄市は与えてくれているっていうのを、多分ですね、多くの方は知らないし、多分——さすが執行部、PRされていないですね、そういうところは、さすが。だからこういうのを、僕は逆にですね、ここは——（発言する者あり）逆にですね、どんどんPRして、前回落ちられた方も、もう1回挑戦しなさい。27、30の人たちも来てくれと、そういうのをちょっと、もう少しPRに力を入れていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まあ確かに、やっぱりそうですよね。これ書いてはいるんですけど、なかなかそこを——結構、今年は人柄だとか、去年はやる気だっていって、もう来年は、年齢制限ありませんっていうのを全面的に出そうと思っています。うち、三宅っていう面白い職員がいますね。彼は、山田恭輔さんと、もし1回目に入ってたら同期だったと思うんですけど。3回目に入って来たんですよ。非常に素晴らしいです、うん。素晴らしいです、本当に。ですので、そういう、なんかこうめげずにね、まあ、本人はめげたときもあったと思うんですけども、やっぱりそうやって3回目ですね、入ってくる職員って、やっぱり愛おしいじゃないですか。ですので、なんかそういう人たちがね、また増えれば良いなって思って。まあ1回目ですね、入るのがそれは一番いいんですけども、やっぱり2回目、3回目って。もし3回目、もしこれ採らなかったらどうしてたって言ったら、市長の身に危険が生じたと思いますというところまでね、武雄にやっぱり入りたいたいですよ。だから我々は、そういう気持ちに応えるような環境をもっと作っていかなければいけないと。三宅さんを見ながらね、そういうふうに思います。ただ三宅さんとなんか顔が似ておられるので、なおさら思い浮かべた次第です。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

繰り返しになりますけども、年齢制限がついてないのは武雄だけ。これは本当にですね、

ある意味、これを視察に来てもいいぐらいだと私は思うぐらいだと思います。これは逆にPRしていい部分だと思っております。この部分は、職員採用に関しては終わって、次にいきたいと思っております。

では、次は教育について。先ほど、19番議員も教育についてということで、連続で教育なんですけども。今年はiPadの配付。そして、そのiPadの授業をするための監督官。そういうふうな形でやっていただいたと思います。いろんなマスコミとかなんとかで、今さきほど市長も、この場で次回は教育についてやりたいということ言われています。私自身もですね、教育に関してはいつもこの議会で質問させていただき、教科書問題にしろ何にしろいろんなことでさせていただいていますが、ぜひですね、さっきこの場で言われました——地域づくりと、その教育。そういう面の、そういうことをさっきいわれましたんで、それについて例えばですね、まだ構想の部分でもいいですし、ここでいわれる部分だけでもいいですから、iPadを使ったとか、いろんな部分で地域づくり、そして前、給食に関連しても言っていただいたと思います。いろんな面に関してもちょっと言われる部分だけでいいですから、市長のそういうふうな意気込みの部分を、再度伺いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これちょっと関係者がいますし、まだ、我々のなかで詰めきっている話でもありませんので、ちょっと言える範囲内だけでちょっと申し上げたいと思うんですけれども、まずですね、教育の主眼におくのは生き抜く力です。生き抜く力。偏差値じゃなくてその生き抜く力を子どもたちに持たせるためにはどういう教育の構成がいいかっていうのを、教育委員会と、今話をしています。まあ、教育委員会の主管ですので教育委員会の意見を尊重しながら、我々でもバックアップをするようにしているんですね。その中の1つの手立てとして、方法としてタブレット、タブレットなんですけれども、これ今ね、電子教科書とかいろんなことを今、言われています。アプリケーションとか。僕ね、基本的にそれ反対なんですよ。ていうのは、例えば映像だったら映画に負けます。スパイダーマンに負けます。あるいは、そのエンターテインメント性、娯楽性だったらこれゲームに負けます。子どもたちは、私たちよりもう目が肥えています。ですので、そういういろんなものの二番煎じよりも、むしろ、むしろですよ、例えば牟田さんとか僕もそうだったんですけど、よくよく子どもたち、子どもの時代に考えたときに、1回じゃわからんですよね、学校の先生の話って。2回、3回聞いて、やっとわかるとか。子どもたちによっては、5回聞いてやっとわかったとか。そういうことを考えた場合に、そのiPadを中心とするタブレット、まだ決めてるわけじゃないんですけど、まあ、あえてタブレットといいますけれども、タブレットの中に学校の優れた先生の授業を單元ごとに入れて、それを家に持ち帰ると。持って帰ってもらって、それをできれば保護者と

一緒に見て欲しいと、ね。しかもその中に、例えばずっと、例えば30分なら30分、40分なら40分の流しっぱなしだと子どもは飽きちゃううんで、その中に少しアプリケーションを入れて、例えば10分たったときにね、ここわかったとかっていうのをに入れて、それを学校でまた共有するというふうになればいいなと思っています。ですので、単に計算ドリルをね、タブレットに入れて、子どもたちの負担をさらに増やすとかということよりも、むしろ学校の生身の優れた授業をタブレットに入れて。それを家で持ち帰ってもう一回、できれば保護者と見るとか、兄弟と見るとかっていうふうにして。保護者も多分「ああこんなこと習ってんの」、「自分たちが習ったときよりもはるかにいいよね」というのになると保護者が、学校を応援するきっかけになると思うんです。ですので僕はぜひ、それはそういうふうにしたい。特に小学校の英語教育は、それ絶対に必要です。私の妹は学校の教諭です。「もう兄ちゃんね、英語教えきらん」て。そりゃあそうですよ、日本人ですから。それと彼女が入ったときってというのは、英語なんて想定もしてなかったんですね。上野議員さんね。ですので、それを考えたときに、やっぱりそれはネイティブの人が入れたものを、家で見るってというのは、すごい大事だと思うんですね。日本語も話せて。そういうふうにリアルな世界でなかなかできないものを、タブレットに入れて見てもらう。そうすると、こういう批判があると思うんですよ。要するに、学校の現場を家に持ち込むのかということ。でもくだらんテレビ見るよりは、そっちの、いい先生の、例えば歴史とか道徳でもあってもいいと思うんですけど、そっち見たほうがよっぽどいいです。ですのでそういうふうに、溶け合うというか、学校と家庭が、対立する。ともすれば対立軸になりがちなんですけど、やっぱりこうお互いにわかり合って溶け合うようなものが、今のICTだとできますので、そういう形にしていくと何が起きるかかっていうと、「そこで実際、学びたい」ってなるんですよ。やっぱりデジタルよりも本物っていうふうに絶対なりますので、それを地域政策として、過疎対策としてね、そこに住んでいなければ、そのうち、学校には通えせんということに、ぜひしていきたいと思っています。ですので、今我々が考えていることは、全部小学校を市内を変えるっていうのは、およそ現実的じゃないですし、そんなことは考えていません。ですので、地域で、——あと具体策は来年の4月に出していきますけれども、具体策は来年の4月の選挙後に出していきますけれども。その前に方向性として、私は3期目の公約として出していきます。具体的な方向は出していきますけれども、そのなかで、学校の先生のお力を借りて、中心として、既存の制度の中で、特区とかじゃなくて、どっかから招き寄せるんじゃなくて、やっぱり武雄の小学校、あるいは中学校の先生のお力を、これは高校にもなるかもしれませんが、既存の先生のお力を借りながら、そういったことを進めてまいりたいと思っています。今言えるのはこの範囲です。もう少し、ぼろっとしゃべろうかなと思いましたが、やめたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

何かやろうとすると、いろんなこと出るのは当たり前ですね。でもそうやってですね、新しい革新とか実績があったら、そういうのを、どんどんいいところを取り入れてやっていただければ、我々も応援しますよ。ひょっとすると、いろんな町も「ぜひ」って言って、手を挙げてくるかもしれません。そういう中でぜひ、頑張ってくださいね、市長も進めていってもらいたいし、地域も、さっき地域って言葉を使われました。地域もそうやって一緒になってやっていかなきゃいけないってことなので、その辺のところを再度、お伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

我々は一旦、制度設計をしていきます。先ほど申し上げたように、私の今度の市長選の公約の中で、こういう方向性っていうのは書いていきますけれども、具体が整うのは議会の構成が変わり、そしてその段階で具体的なものを指し示しています。そのときに我々が気を付けなきゃいけないと思っているのは、押しつけは絶対にしません、押しつけは。例えばこの学校はこういうふうにしなさいとか、してほしいっていうことは言いません。ですので、地域、地域でこれはぜひ、我々が提案したときに手をあげていただいて、そういったところと、まず組んでいきたいというように思っております。

やっぱりこう、地域の理解なくしてやっぱり教育ってやっぱりないんですよ。ですので、それはいろんな、例えばその中でも課題って出てくると思うんですよ。課題って出てくると思うんですけども、やっぱり今いろいろ考えたときに、子どもたちの教育のために、私が今、知り合いになった人たちが、どこで教育を受けさせているかという、シンガポールで受けさせているんですよ。あるいはシンガポールの隣の、マレーシアのジョホールバルで受けさせているんですよ。そこは日本人の割合が多いと。それはなぜかという、日本の、何ていうんですか、どこで学んでも一緒だということ。それで私立でも、偏差値、要するに正解を求めるといふか、正解を見つけるというような教育じゃなくて、自分たちでやっば正解をつくるっていうようなところにいきたいと。それとやっぱり英語ですよ。これは今の公立の教育では、ちょっとやっぱり無理なんですよ、今のままの。無理ですし、且つ私立がいいかといっても、それは全然、偏差値教育ばかりで、例えば東大何人とか、京大何人とか、九州大学何人とかっていうので、輪切りになっているっていうのがあって、だから、そういうふうにはやっぱり求められている教育を公立の教育の中でできないかということは今、文科省さんであるとか、県の教育委員会であるとか、武雄市の教育委員会といろんな議論をしながら、そういうのを作っていきたいというように思っています。

私は、できない理由よりもできる理由。百の議論よりも一の実行を、今までずっと、それで貫いてきましたので、もし、繰り返しますけれども、そこに問題課題が生じたら修正をして

いけばいいって、修正をするということで、ぜひね、そういう教育っていうことに関しても、長くなりましたけれども、地域の皆さんとよく話をしていきたいなど。押しつけは絶対にしません。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今ですね、「共に頑張っていくところを選んでいこう」みたいな形で言われたと思います。我々もですね、それを勉強をしながら、いろんな動きをやっていきたいと思っております。

今、市長の答弁の中で、父兄、親と一緒にタブレットをすとか、なんとかあったんですけど、これは事前審査にはなりませんけども、保護者用のそういうふうなタブレットの講習とか何とかってあるんですかね。例えば今いろんなところで、おっこうろうさんと何とかって。やっぱり子どもはわかってきて、親がちょっと見せろと言っても、わからない。だから、保護者用のそういうふうな講習制度とかも取り入れてやったら、さっき言った「共に」っていう言葉よく使われたんで、共にやっていく分にはいいと思うんですけども、市内には、そういうふうなすばらしい方がいらっしゃる。共にこう、保護者用の講習とかなんとかっていうのはいかがなんでしょうかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは非常に大事な論点で、図書館で僕が徘徊していたときに、親御さんたちが、あれですよね。タブレットを全員に配付するっていうのが、まあいろんな新聞にのった翌日、僕が図書館に行ったら、父兄の皆さんたちが僕のところにわーっとやってくるんですよね。「ちょっと市長さん配あぎこまあです」って言われたわけです。「なし配あぎこまあですか」と言うたらですね、「もう子どもについていっきらんことなる」って。そいぎ、私はそのときに言いました。「うちはICT寺子屋があります」ということを言いまして、だから「それで講習とかを受けるとどうでしょうか」と言ったら「それはぜひ受けたい」と。要するに、それは子どもたちと一緒に受けるのか、まあ親だけかっていうのはいろいろあるんですけども、そのバックアップというのは、ぜひしていかなきゃいけないと思っていますし、それが、ひいては地域のICTをつなげると。要するに子どもたちをきっかけとして、これ食育も一緒だったんですよ。今、武雄市は食育課が非常に頑張っていて、こども部が頑張っていて、実は物すごく根付いているのは、こども部に食育課をつくって、食育が子どもたちから親、あるいは、じいちゃんばあちゃんに広がっているという構図になっているんですよ。それを考えた場合に、タブレットを子どもたちに配布しますとしたときに、次は親御さんたちが必ず関心を持つじゃないですか。そこで、我々は行政としてバックアップをして、そうすると今度はど

う広がっていくかっていうと、さきほど申し上げたように、あの人もこの人も使っていると。しかも楽しそうにしているっていうことになるよね、使っていない方々に対しても、じゃ使おうかというふうになると思いますので、ぜひそういう流れを大切にしていきたいと思っていますし、これこそ議会の、黒岩委員長のIT特別委員会でまた、いろんなアドバイスを賜ってまいりたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ、保護者用ですね、そういうふうな講習とか、バックアップをやっていただきたいと思います。

では教育に関して次の質問であります。市内の小学校、中学校に、留学生の受け入れはできるのか。公立小学校、中学校ですね。例えばセバストポールとは姉妹都市ですから、夏季限定で例えば20日間やってくるとか、1週間やってくるっていうのはあるんですけども、留学生を受け入れることはできるのか。武雄市はさっき言ったように、全国というか、世界に発信しています。そういう中でやっぱりですね、これちょっと、これも余談になりますが、英語ができる、できないというのはですね、基準は会話ができるかどうかなんですよね。英語できますかって、文法的な面じゃなくて、英語できる、話せるというのはカンバセーション、会話ですよ。そういうときに、私も高校時代とか、留学生がいらっしやっていました。

そういう中で、先ほど市長も言われた、何て言うんですか、シンガポールに子どもたちをやっているの、これ逆バージョンで、武雄にそういう世界から英語圏へといっているんですかね。受け入れることができないものか。これたぶん、あんまり聞いたことがないんですね、私もこれも勉強かたがたお伺いしているんですけども、そういう受け入れは可能か。

やっぱり小学生にそういう子どもが来たら、やっぱり一生懸命話そうと思って話すんですよ。やっぱり文法とあれでは違うし、もちろんこれからは、iPadで耳に入ってくる部分もできるんですね、そういう方々の受け入れっていうのを、できればですね、やっていきたいわけで――。

そして、これもちょっと余談ですけども、お茶の水女子大。お茶の水女子大は今度から4学期制をとられます。4学期制をとられます。なんでかっていったら、そういう留学生に合わせて。やっぱり向こう9月始業とかありますんで、4学期制をとって向こうから来る、こっちからも行く、というのもできますけども、そういうふうなものが、ですから単位制ですね。やっぱり学校というのは義務教育、どこも義務教育ですから、そういうふうな単位制ですから。

今、武雄2学期制ですけども、そういうふうに分けてやったら、単位もきちっとやるこ

とができる。日本も実際子どもたちは海外行って単位をとってる。そういう中で、やっぱり生の子どもたちが、各学校1人英語圏の人が、やっぱり一生懸命しゃべりますよね、カンパシーションの部分で。

そういうのが実現可能かどうか。これやれば、多分全国でも稀だと思うんですけども、そういうこと可能かどうかってところをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

不可能です。仮につくったにしても、今の武雄の小中学校の魅力だと誰も来ません。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ま、言われました、不可能だと。

逆にこうやっっているんな教育改革をして、改革をしてですよ。武雄は今、例えば図書館とか病院、フェイスブックで全国に名を知られ、今度は教育のほうで全国に名を知られるようになった。そういった場合の可能性はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、その可能性はあると思いますね。

ですので、例えばこれ留学というのは、国をどこに想定されているのか僕はわかりませんが、実際、なんていうんですかね、アジアに行くじゃないですか。そうすると、英語をきちんとしてくれれば、実は日本で学ばせたいっていう人たちって結構いるんですよ。ですのでアジアの子どもたちを受け入れると。そのときは日本語も学びたいという子たちが多いんですよ。だから、日本語、英語でそれっていうのはあると思うんですけど、これは、なかなか道は険しいと思いますよ。

それよりも、子どもたちの、さっき議員の御質問を聞きながら、市内の小中学生の英語力を高めたいっていうのであれば、今現に議長が主導してやっておられますけれども、セバストポール。セバストポールに、我々多くの子どもたちを送って、3週間とか1カ月単位で送っているんですよ。その子たちを、こう増やしていくっていうのが多分効果的だと思いますし、実は私の姪っ子が、うちの妻のお姉さんですよ。姉さんがカナダ人と嫁いで、今カナダのカルガリーに住んでいるんですね。カルガリーに住んでいる姪っ子が、武雄小学校に夏休み来ていたんですよ。通って行ってたんですけど、そういうことが広がればいいなって。

これね、武雄小学校、抜群にやっぱ良かったって、やっぱ言ってるんですよ。友達もできたし、実際にね、一緒に遊ぶようになったんですよ。最初はどっちかっていうと、こうなっていましたけど、お互い一緒に遊ぶようになってきたんで、そういう固い制度よりも、そういったことができますよというのをどんどんやっぱ周知をしていけばいいなというように思っています。

ですので留学というよりも、むしろスクールステイですよ。ホームステイっていうかスクールステイっていうか、その制度をきちんと拡充をしていくというのは大事なんだろうなと思ってるんですけども、今、市内の小学校は、そこは、うちの姪っ子を受け入れたというのがあるからすごいよくわかるんですけど、物すごく武雄小学校はフレンドリーにやってくれました。名字が違うのでまさか私の姪っ子だっていうのは夢にも思っていなかったと思うんですけど、それでも、ちゃんと、途中からわかって引きつってましたけど。でも、そこはすごく感謝をしたいなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ここは留学って書いておりますけども、留学に限らず、そういうふうな生な異文化。そして、そういう英語圏にしる、中国圏にしる、いろんな、アジア圏にしる、そういうような方々との交流で、更に今の子どもたち、さっき言われました教育に関して、また全国にPRできればと思っております。よろしくをお願いします。

じゃ、次です。

これは、さっき何回か言いました市長と語る会であって、いろんな質問が出ました。要望も出ました。そういう中で、意外に多かったのが「iPadについては、もうそれはOKです、頑張ってください」と。ただ、「道徳教育をお願いします」というところが、声が多かったんですね。やっぱり皆さん、iPadに関してはもう、どんどん頑張ってくれということではあったんですけども、ただ道徳教育を忘れないっていうのが、この日ですね5人質問されたうちの3人が、道徳教育っていうのを強くおっしゃっていました。

私ですね、道徳教育で、前これ、昔議会でも言ったんですけども、修身。これ、昔のやつです。修身というのは、戦前教育で取り上げ、戦前という言葉いかんですね。明治時代の教育で取り上げられていたんですけども、修身。これは、「身を正しく修めて、立派な行いをするように努めること。旧制の小中学校の教科の1つ」ということであつとります。

この修身というのは徳目というのがあって、どういうふうな内容か。家庭のしつけ、親孝行、勤労、努力、こういうふうなのが、全てこう入っていると。

こういう中でも、一つ一つ、例えば今、多分教育のほうではあっていないかもしれないですけども、野口英世とか、本居宣長とか、あの地図をつくった人、何ていいましたかね。あの

（「伊能忠敬」と呼ぶ者あり）伊能忠敬、そうです、さすがですね。伊能忠敬とか、そういうのを取り混ぜながらやっている。でもこれ日本だけじゃなくって、海外の人の分も取り上げてやっている。こういうふうな、物すごくいい制度があります。

よくですね、これを言うのですね、あんた右やろとか言われるんですけども、教育勅語ですね。教育勅語。（発言する者あり）はい。教育勅語はですね、例えば悪いこと書いてないですね。親に、親孝行しましょう。兄弟は仲良く、夫婦は仲良く、友達は信じ合いましょうと、こういったいいことが書いてあるんですね。

これは、ある人がですね、政府の偉い人が海外に行ったと。海外行って、こう学校教育を見ていたら、物すごく良いことが書いてあったと。「お宅の国はすごいですね。こういうふうな教育をなさっているから、国民いいですね」と言ったら、向こうの人が「何を言ってらっしゃるんですか」って。「これは、あなた方の昔の教育勅語とか修身を、これを英語に直しただけです」と。そういうふうな形でされていると。本当に悪いことじゃないですよ。悪いことじゃないんですけども、なんかこう、変なふうにとられている。

今ですね、本当いろんなテレビとかなんとか新聞雑誌、見ているともう、本当に信じられないような事件があります。

先ほども言いました、道徳の時間をなんとか良くしていただきたいって。これの例で、修身とか教育勅語っていうのを出したんですけども。これを使ってくださいっていうことではないんです。こういうふうないい部分もあると。（「いいですね」と呼ぶ者あり）いい部分もぜひ、道徳教育にですね、力をいっていただきたいというのがあるんですよ。

道徳教育で、何て言うんですか、やっぱり、子どものうちからやっぱりそういうようなことをきちっとやる。基本は家庭ですよ。基本は家庭だと思うんですけども、道徳教育っていうのを、きちんとそういうふうにして、していっていただく。今私が、こうやって言った明治時代には、こういうふうなのがあったと。いらんとこはとっていただいてもいいけど、いいとこは取り入れてやっていただければと思っております。決してどっち側とかじゃなくって、いいものは取り上げてそれをやっていく姿勢というのが大切じゃないかと僕は思うんですけども。

道徳教育、ぜひ力をいって入れていただきたいのが1つと、もう1つはiPadが今度から始まります。iPadにしてもこういうふうな、道徳教育の、そういう何て言うんですか、それで見れるようなことができるのか、教えることができるのか。この2点をお伺いしたいと思います。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

私の一番好きな風景は、神社とかお寺とか、年配の方が通るときに自然と頭を下げたとお

られる。そういう姿ちゅうのは、子どもたち見てるので、1つのいい風景だなと思って、いつも見せていただくんですね。

今、道徳の話を出していただいて、本当にありがたく思っております。教育の一番大事な不易の部分ということですね、極めて大事なことだというふうに思っております。

今、小学校1、2年で16項目のいわゆる道徳的な項目がございます。指導する項目がございます。3年生、4年生で18項目。4年生、6年生で22項目と。中学校で24ですかね。そういうような項目ですね、今出していただいている、いわゆる括弧書きでしてあるような項目について、道徳で指導しているわけであります。

ちょっと長くなりますけど、よろしいですかね。できるだけ短くします。

ただ、私たちもそうですけれども、先生の話聞くだけであったり、本を読むだけでは、なかなか実感として伴わない部分がございます。従いまして（モニター使用）道徳教育、豊かな心を育むためにということで、まず道徳の授業。これはもう当然、核として大事でございます。その中で、3項目ほどあげております。ふれあい道徳、それから心のノートの活用、それから「心といのちの健康を育むたけおプラン」というのを3、4年前から作っております。体験活動を通した指導、体験を通して心を学ぶということでございます。ボランティア活動、自然体験や社会経験など。それから、先程来、出ております、地域で育まれる情操というのがあろうかと思えます。

具体的に見ていきたいと思えます。

例えば、ふれあい道徳というのは、土曜か日曜などに、保護者の方も一緒に考えていただくという道徳授業の公開でございます。心のノート、これは低・中・高、中学生とあるわけでございます。中にはこの、心のノートの中にある非常にいい詩を校内や校門に掲示したりして、子どもたちに訴えかけるというような学校もございます。

それから、心といのちの健康を育むたけおプラン。命を粗末にする事件等がありました。それ以後ですね、こういうように、その教材を使った道徳授業、あるいは右側では妊婦さんや赤ちゃんと触れ合い、命の学習をする子どもたち、こういう心と命の健康を豊かに育んでいきたいという授業もやっております。

それから、体験を通した道徳。これはもう、ずっと以前からやっていたことでありますけれども、修学旅行での平和を通した学習、あるいは栽培を通して命の大切さ、感謝の気持ちを深める学習。あるいは保護者や地域の方々とのボランティア活動を通して、心を豊かにする活動。

そして、ご存じのとおり、仙台陸前高田市への派遣研修等ですね、心を培うというように、まだいくらかしか取り上げきれませんでしたけれども、単に項目として、徳目として学ぶんじゃなくて、体験を通して、いろんな方々との触れ合いの中で発達段階に応じて心を磨いていくと、こういう状況でございます。

タブレットを活用した道徳の指導ということでございますが、タブレットの特性として、いろんな情報が収集できるという特性があるわけでありまして、それを基にした交流等が十分に可能かなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、道徳は、いずれにしても人と人との関係だと思っておりますよ。それは、目上の方と子どもたちの関係でもあるし、それはあるいは同級生同士の中で、だから僕はタブレットで道徳教育は不可能だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

いずれにしろですね、やっぱり道徳教育を、なんか要望されている年輩の方、いろんな方が多かったです。ぜひ、これからもですね、力を入れて、そういう武雄市内の子どもたち、道徳教育に力を入れていていただきたいと思います。

では、次です。

これ、あれですね。この前言われた教育。ぜひ、これからも教育、頑張ってくださいと思います。

では、次です。次、地域おこし。地域おこしの問題です。地域おこしの問題も、これはもう人口を書いています。若木は、やっぱり一番少ないです、1,800 人。東が 2,300、西が 2,300、武内が 2,500、だんだん減っていております。こういう中で、いろんな、さっきも言われました、教育に対して、教育に起こることによって、いろんな地域連携でそういうのも解消したいというのも言われましたけども、ちょっと今回取り上げられるのは、婚活。

あの、結構独身の方いらっしゃるんで、地域に例えば 4 人、5 人独身の方がいらっしゃって、それがうまくいけば、そこで 1 世帯、2 世帯、3 世帯、4 世帯になっていくと。世帯がありますけども、そういった婚活の中で 1 件、ちょっとこれは、要望と質問なんですけども、婚活、お結び課の中で婚活の部分、物すごく頑張ってもらっちゃと思います。頑張ってもらっちゃる中で、1 つお願いなんですけども、彼も頑張ってもらっちゃるんですけども、いろんなグループでも頑張ろうとされているんですね。

例えば消防団の中でも、A 消防団の中で「私も婚活活動しようか」。B というグループで「俺たちも婚活活動しようか」とか、そういうふうなところに、例えば、そういうふうな意見を募集して、いいところは、例えば予算もかかるから 2 万円ずつ、そういうふうな、なんていうか。活動費を、これあんまり、そのお金うんぬんというのはよくないかもしれませんが、さっき言ったように、婚活課いろいろ頑張ってもらっちゃると思います。頑張って

らっしゃるけども、各地域でもですね、なんとかしたいという声がある。

さっき言ったように消防の中でも、我々だけで婚活活動を、団員いっぱいいるんでやろうかとかですね、そういう中で、そういうふうな意見、いろんな要望を受けとって、婚活課の中で調べて、これはいいと思ったらそういうふうな補助を出す。そういうふうな制度ができないものか。これを質問にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

その補助で、どういうことがどうなるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先日見たのが、例えば、佐世保の花火大会だったんですね。佐世保の花火大会、もう、人もこもこでした。そしたらですね、席をきってあるんですね。

最初ですね、地区の市長さんとか、いろんな人たちの席だと思ったんですよ。こう、とってある席だと思って「ここ入れないですね」って言ったら、「ここは独身の男女の方を優先してやっている。我々はそういうふうなグループです」と。その中に独身の方——もちろん応募した人たちなんですけど、そうやって入って、そこの席でテーブルを一緒にして、させると。「それ、すごいですね」って。やっぱり、すごいもこもこしている中で、そこだけゆったりして語らってらっしゃるんですね。

これは、例えば予算というか、予算とまで言葉は使われなかった。大変ですねって。ああいろんな、そういう補助を受けて、我々は自分たちから提案して、こういうふうなことをいただきましたと。で、やっていると。そういうのもやられる。それと、別のところでは、焼肉会ですね。焼肉会をして、人がこう、集まるような形をしてやっていると。

そういう中で、そういうふうな券をつくったり、いろんな道具を借りたり、そういうふうなので費用がかかると。そういうような部分が、補助とかなんとかできないものでしょうか、という部分が質問です。

〔樋渡市長「なるほど」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

具体例があると、やっぱりよくわかりますよね。

なんかこう牟田さんのところにこう婚活ってあると、なんか、こう目がチカチカするんです。

〔21 番「トンカツじゃなかですよ。」〕

あ、トンカツじゃなかですね――。

これ、ちょっと見にくいかもしれないんですけど「平成 25 年度佐賀県のしあわせフォロー応援事業企画提案募集要項」とありまして、これ県が、先ほど牟田議員さんがおっしゃったように、企画条件が良ければイベント交付金を、こう渡していくと。それと、補助金の上限も 1 企画あたり 30 万ていうのがあって、ちょっとこれ、うち、これから制度設計しますけれども、ちょっと 2 つ考えたいと思います。

これに、プラス上増しをするというパターンですよ。あの太陽光の補助みたいに、これに上増しをするパターンと、うちは結構マッチングをやっているんですよ。ですので、マッチングだとこれにちょっとそぐわないんですよ。ですので、ちょっとこれにそぐわないもので出すというのと 2 通りちょっと考えたいということは思っています。

いずれにしても、後押しはしていきたいと思ってますし、いろんなグループでこうやりたいけど、これでもうけることは考えてないけれども、手弁当でこれ結構大変だというお声も聞いておりますので、それはまず、やってくださっている方の意見をしっかり聞いて、それで必要とあらば、きちんと制度設計をしてみたいと思っております。これは、そんなに巨額な額でもありませんので、それは、そういうふうにしていきたいな、というふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

まあそういう形ですね、地域で自分たちでなんとかそういうのをやりたいっていう方がいらっしゃるんですね、あのそういうふうな制度を使って、また紹介もしていきたいと思えます。

では、次です。

次がですね、ちょっと私あんまり、こういう質問どがなかなか思ったとばってん、「あまちゃん」。「あまちゃん」すごい人気ですね。

で、「あまちゃん」の中で、武雄は昔アイドルグループということで、高齢者の G A B B A。

〔樋渡市長「G A B B A」〕

G A B B A やりましたね。

次です。これはですね……

〔樋渡市長「全然違うやん」〕

全然違う。全然違う。これ大分ですね、地域アイドルというんですか、何と言うんですかね。地域アイドルって言うんですか、のグループです。「あまちゃん」のホームページで地

域アイドルの投票があるんですね。1位です。ここが。物すごいんですね、忙しいと。

これ大分なんですけども、大分の議員が先日武雄に来られたんですよ。GABBAの話とかなんかしていたら、これ、大分の市がもう、やっているらしいんですね、大分市が。県でもやってらっしゃるところがあると。

さっき言ったように、これは質問で取り上げるのはどうかと悩んだんですよ、その大分の議員は元議長なんですけども、言うにはですね、武雄は情報発信すごいでしょうと。これいつか言った、「武雄」ってこう、検索ワード、50、40億……

〔樋渡市長「48億」〕

48億出てくると。そういう中で発信したら、武雄はすぐ上位に来る。これ2位が横浜らしいんですよ。横浜の、何とかっていうグループ。SPA何とかっていうんですけども。だからそういうのを考えたら「どうだ、お前、すごいだろう、武雄の情報発信力は」っていうことであつたんですけども、そういうふうな、1つのこれも地域おこしですよ。武雄は情報発信力が全国でも飛び抜けてるから、こういうようなことをやったらどうだと。

ち、地域——何て言うんですか、これ。（「ご当地アイドル」と呼ぶ者あり）ご当地アイドル。そうそうそう、失礼しました。僕もちょっと、あまり慣れていないもんです。

これ物すごいですよ。これですね、さっき言った大分の議員からも勧められたし、横浜の議員からもですね。

やっぱりですね、これ何でかという、武雄の情報発進力を物すごくこう言われているんですね。こういうのをやったらどうだということでは言われていました。これも1つの地域おこしだと思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いやーなかなかね、GABBAを越すのは、もう出てきませんよ。いやー、あのGABBAの衝撃たるやですね。これ知事も、古川知事も驚いていましたけれど、もう何年前になるんですかね。上海万博で、物すごく中国人の方も喜んでいただいて、中国の方々が泣きながら、なんていうんですかね、「日本のお年寄りってやっぱすごかですね」て。佐賀弁じゃないですけど、おっしゃるぐらいすごかったです。

ですので、あのGABBAを越すっていうことになると、これは、とんでもないハードルになると思うんですよ。

正直言って、僕も「あまちゃん」見えています。「あまちゃん」見えていますし、いろんなの聞きますけど、ご当地アイドルって、僕はピンと来ないんですよ。GABBAのときは、ピンカーンって来ましたもんね。でも、どうも、こう僕の気持ちの中にすって入っていかないんですよ。これって多分直感なんですよ。

ですので、ただ、僕がだめだからと言って、その機会をつむということはしたくないんで、うちアイドル担当の課長がいますので、山田恭輔課長に、ちょっと考えてもらいたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ちょっと変な質問だったんですけど、これはですね、さっき言った、大都市の議員が真顔で言うんですね。それは、とりもなおさず、武雄の情報発信力を物すごいつて、やっぱり思っているから、そういうふうに勧めました。

ちょっとさっきの質問、ま、山田さんが頑張るんなら、協力いたします。

〔樋渡市長「はい、アイドル課長」〕

では、最後の質問です。最後の質問はBMX。

これはいろんな場所で、上田議員さん言われてて、ここの場でも何回もしてます。質問されて、私自身もこう質問されているんですけども、やっぱり1番は、その政策作成と、運営のほうですね。

すいません、私もうスマホで撮っているんでちょっとぼけているんですけど。あ、ぼけて言っちゃいけないか。

これ、コカ・コーラの看板です。これは、年間300万の広告収入があると。これも300万の広告収入があると。これ、こっち側も300万の広告収入があると。結構ですね、BMXというのは若い人たちが多いので、コーラとかいろんなところの製品は結構出されるらしいんですね。

これは、要望質問なんですけども、運営費っていうのが一番問題になると思います。そういう中で、こういうふうないろんな広告収入が、これ岸和田であつとります。海外を見ると、海外はですね、もっとすごい広告収入が入っているんですね、BMXの。やっぱり、人口が違うからでしょうか、BMX人口が。

運営費が、ネックになっている、そういう部分があるのなら、こういうふうな広告収入を踏まえた上で、考えていただきたいと思いますけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

BMXコースの整備につきましては、確かに競輪があるっていう武雄市の強みを活かす意味でもですね、前向きに整備できればということで、現在、建設場所の選定も含めまして、運営方法あるいはランニングコストも合わせまして、現在調査を進めている段階です。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど言いましたように、運営とかなんとかネックになっているのなら、さっき言った、広告収入っていうのが、こうやってかなりあがっているっていうのを、ぜひ考慮した上で、先ほど言われた、いろんところでやっていただきたいと思います。

すいません、ちょっと長くなりました。以上で終わります。

この最後の画像はですね、先日センチュリーホテルで行われた、シェ・イノの古賀シェフと吉武シェフのお料理のやつ。

これも、こういうのもですね、武雄で、行われたっていうのは、本当にニュースになっております。さっき言った情報発信力、武雄は抜群であります。これからも頑張ってくださいと思います。

以上で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、5分程度休憩いたします。